

令和3年度下半期の主なセンターの活動報告

安佐地区医療介護連携マニュアル説明用DVDを作成

安佐地区医療介護連携マニュアル2021年改訂版の広報周知のためのDVDを作成しました。動画はYouTubeでも公開しています。センターホームページ「**安佐地区医療介護連携マニュアル2021改訂版**」から「**説明用動画**」をクリックしてください。

安佐地区医療介護連携マニュアル 2021改訂版



広島市北部在宅医療・介護連携推進委員会

安佐地区ケアカンファレンス推進協議会の開催

開催日時 令和3年11月12日（金）19:00～

- カンファレンスの事例発表「認知症と心不全がある高齢者に対し、入院を機に多職種連携で支援した事例」
- ミニ講演
「高齢者の心不全と在宅管理」 広島市立安佐市民病院診療統括部統括部長補佐 加藤 雅也 先生
「心不全・認知症×口腔」 亀宝歯科医院 藪 健一郎 先生
「高齢者の心不全に対するリハビリテーション」 広島市立安佐市民病院リハビリテーション科 理学療法士 富田 瑛博 先生
「高齢者の心不全に対する栄養管理」 広島共立病院栄養科 管理栄養士 遠藤 由紀子 先生

安佐地区地域ケアフォーラム2021の開催

開催日時 令和4年2月26日（土）14:00～

- 基調講演「新型コロナウイルス感染症に関する最新情報について」
講師 県立広島病院呼吸器センター長 呼吸器内科主任部長 石川 暢久 先生
- シンポジウム、ディスカッション
「コロナ禍における在宅診療～看取り・ワクチン接種について～」 やまぐちホームケアクリニック 院長 山口 剛 先生
「コロナ感染で変化した看取りとACP」 安佐医師会訪問看護ステーション 管理者 山ノ内 三由紀 先生
「コロナ禍におけるご本人の思いに寄り添い～家族の力～」 IGL居宅介護支援事業所 主任介護支援専門員 亀井 麻紀 先生
「コロナ禍でもその人らしい看取りを」 広島共立病院 医療福祉相談室課長 山地 恭子 先生

令和4年度の主な活動計画

【広島市北部在宅医療・介護連携推進委員会】

- ①安佐地区における訪問看護ステーションの活動状況の把握と公開
- ②安佐地区医療介護連携マニュアルの広報・周知

【在宅療養に向けた移行支援】

退院調整に関する相談対応

【センター研修会の開催】

令和4年7月1日（金）19:00～

特別講演：認知症治療と介護・福祉の連携してどうなった
～診断から、日々の対応・生活改善へ～

講師：医療法人社団 里滋会 片山内科クリニック
院長 片山 禎夫 先生

【安佐地区ケアカンファレンス推進協議会の開催】

令和4年秋頃開催予定

【認知症初期集中支援チームの活動】

裏面「あさオレンジだより」をご参照ください

センター職員紹介



左から、中原医療ソーシャルワーカー、倉本社会福祉士、山根保健師（課長）、高橋センター長、臼井主査、広重作業療法士、徳満主任介護支援専門員です。

山根保健師より：この4月に参りました山根と申します。皆さまのご協力をいただきながら、さらなる医療・介護の連携を進めていけたらと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

臼井主査より：4月から事務を担当しております、臼井と申します。微力ながら、皆さまのお役に立てるよう力を尽くしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

裏面へ→

安佐南区・安佐北区では広島市から委託を受けて、安佐医師会に、認知症初期集中支援チーム（オレンジ支援チーム）が配置されています。チームの活動は認知症の方やその疑いがある方、その家族をチーム員が訪問し、本人や家族に困りごとを確認し、適切な医療や介護サービスにつなげるための初期支援を集中的に行っています。また、チーム員会議で必要と判断された場合、チーム員医師とのアウトリーチも行っています。これからも地域の関係機関の皆様と連携しながら、認知症の方が安佐地区で安心して自分らしく暮らしていけるよう努めてまいりますのでぜひご活用いただければと思います。

安佐地区オレンジ支援チーム員のご紹介

【安佐南区】チーム員医師 ◎チーム長

◎頼島 敬 医師（よりしま内科外科医院）
村田 裕彦 医師（広島共立病院）
地主 和人 医師（地主クリニック）
箱守 英雄 医師（安佐病院）

【安佐北区】チーム員医師 ◎チーム長

◎山下 拓史 医師（安佐市民病院）
高橋 祥一 医師（高陽ニュータウン病院）
増岡 俊治 医師（沖野医院）
真島 宏海 医師（児玉病院）

チーム員専門職

中原 直子【安佐南区主担当】
倉本 佳恵美【安佐北区主担当】
徳満 誠司

令和3年度活動報告

【安佐南区】

相談件数：33件 終了件数：38件
広報・周知活動（広報誌・パンフレットの配布）：70か所

【安佐北区】

相談件数：17件 終了件数：11件
広報・周知活動（広報誌・パンフレットの配布）：69か所

チーム員医師からのメッセージ

安佐南区チーム員医師 地主 和人

認知症初期集中支援チームに参加してみようことを挙げてみます。

認知症初期集中支援チームの支援は、認知症で困っている本人・家族を、医療・介護につなげ、問題を解決していくことです。しかしその事例はさまざまであり、専門医への受診・介護サービスの利用につなげることが困難なこともよくあります。

理想は、認知症があっても地域の中でその人らしく暮らしていけることと言われています。しかし、在宅生活が困難で命にかかわるような事例もあり精神科への入院・施設への入所となることもあります。

受け入れがなかなか難しく思うように支援がすすまない症例も多数あり、介入までに長期間を必要とする事例もありますが、本人・家族の意志・希望を尊重しながら、粘り強くかかわっていきたいと思っています。



安佐北区チーム員医師 高橋 祥一

認知症の患者さんを長期間診ていると、最初は歩いて診察室に入ってきた患者さんが、体力が落ちて車椅子に乗ってくることがしばしばあります。体力の低下と認知症の進行は相関関係にあり、そうなる診察時にどうしても家族と話をすることが多くなりますが、本人の気持ちをそっこのけで、家族の「在宅で介護を続けることがいかに大変であるか」の訴えを聞く時間になりがちです。

でも認知症の患者さんはうまくしゃべれなかったり、思い出せなかったりすることが多くても、まわりで何を話しているかは理解している人も多く、その都度つらい思いをしているのかもしれない。患者さん本人と家族の気持ちが離れがちな時は、診察中に患者さん本人に何を思っているのかを直接聞く時間を作って、以前本人が何を考え、希望していたかを家族に思い出してもらおうのも、本人を含めた家族全体のゴールの確認に必要なことではないかと思っています。

